

こんどう

近藤さえ子の小枝通信

一本の小枝がつなぐお母さんの声

一本の小枝で結ぶ地域の世代

一本の小枝が渡す地域と区政

No.25 2015年3月発行



私は、2003年初めて議員になった時から、どこの政党にも属さない、何の政治団体にも所属しない、無所属議員として活動してきました。

現在中野区議会は、自民党14人、公明党9人、共産党5人、民主党4人、改心中野2人、無所属7人の構成です(欠員1)。中野区のことはほぼ全て、議会での過半数(56%)を占める自民・公明の2つの政党の意向で決まって行きます。また、行政と独立した機関、教育委員会、監査委員会、選挙管理委員会の各委員は、議会の同意や選挙で選ばれるので、これも過半数を占める政党の意向に大きく影響されます。

区の事業の失敗や税金のむだ遣いを指摘しても、行政は、「議会で決議をいただいた」「これが民意、民主主義です」「区には責任がない」と言います。国が「日の丸」と言えば「日の丸」、「オリンピックに向けてスポーツを」と言えば「スポーツ施設」、「観光立国」と言えば「観光産業」…私たちの最も身近な行政に、区民の声は届いているのでしょうか。

「本当にその施策は区民のためになるのか?」「税金の使われ方、区民の生活を第一に考えなくて良いのか?」「子育て施策、高齢者施策が欠落していないか?」、私は一貫して質問を続けてきました。何でも反対するではありません。どこにも属さない無所属だから言える、区民の生活現場の声の代表として発言しているのです。

今、中野区は駅前再開発・大規模公園・西武線沿線まちづくり等の計画中です。その一方、生活保護受給は増え、区民の生活は厳しいまま。このままでは、区が謳う「国際ビジネス拠点」ができた時、今の区民は住めなくなってしまうのではないかと私は危惧します。

議員は、区民による選挙で選ばれます。皆さんと一緒に考えて頂きたいのです。小さな声でも皆さんの応援の声が大きくなれば、議会も変わっていきます。

中野区の行方を決めるのは、皆さん区民です。



いま中野区は!

区民不在の
計画変更!

突如!
「平和の森公園」を
「総合スポーツ施設」に?

3月13日本会議で、第37号議案、平成27年度中野区一般会計補正予算が可決されました。その中に、平和の森公園を総合スポーツ施設に改修するための基本構想・基本計画の策定及び都施設改修調査委託費用4,000万円が含まれていました。平成27年度の予算が議会で採決されてから、たった1週間で補正予算の議決です。

区は、これまで「中野駅周辺グランドデザインバージョン1~3」計画を区民に示し、新体育館は中野駅周辺に設置する予定でした。しかし2月25日、区の方針を決定する正式の場でない「経営本部会議」で、体育館建設は平和の森公園に決定したと言います。行政内部での決定から議決までわずか半月、私たち議員が委員会で審査した日からわずか4日、この計画について区民が知り、検討する時間もありませんでした。

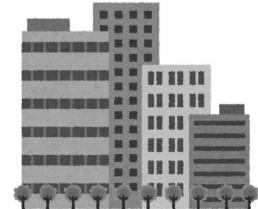
昨年の区長選の時の突然の自治基本条例の改正のように、「何でも議会の過半数賛成で通る」と言わんばかり、中野区の行政は、区民不在で進んでいきます。

中野区の未来 区民の明日

「区役所・サンプラザ地区の再整備については、国際ビジネス拠点の形成等を目指す」と謳う中野駅周辺の整備、西武新宿線沿線のまちづくり、大規模公園の整備、不燃化特区地区のまちづくり等、いま中野区では大規模な事業が次々計画されています。それ莫大な経費と住民の理解を必要とする事業が目白押しです。

- ◆ 「区民の健康維持、介護予防のため」スポーツ施設
- ◆ 会員数が伸び悩むフィットネスクラブや民間スポーツ施設は、これからの中高齢化社会を見据え、医療と連携した予防医療を取り入れようとしています。
- ◆ 中野区にも民間のスポーツ施設や温水プールがいくつもあります。
その中で、中野区は、区独自のスポーツ施設を4つ作る計画です。
 - 中部スポーツ・コミュニティプラザ(仲町小学校跡地)建設費8億円
 - (仮称)南部地域スポーツ施設(富士見中学校跡地)温水プール付
建設費11億円、維持管理費年1億円
さらに今後、北部にも2つのスポーツ施設を作る方針です。
 - 「地域に根ざした活動拠点として絶対必要」と区は言いますが、管理や運営体制も決まらずに箱物を作り、区民主体で運営していくことには無理があり、財政負担・運営・継続性を考えると、これ以上スポーツ施設を作ることは難しいと私は思います。皆さんはどう考えられますか。
 - かつて、山梨県上野原に広大な土地を購入し、計画は頓挫、莫大な維持費と損金を出して売却した
 - 「(幻の)上野原スポーツ施設」を思い浮かべるのは、私だけでしょうか。

本当に
4つのスポーツ
施設が必要?



子育て・教育現場から

■いじめ・不登校の子どもたちを見捨てない！

川崎市で中学1年生が、18歳の少年に殺される悲しい事件がありました。子どもたちのSOS(不登校・いじめ)を見逃さないために、親と学校だけでなく、学校と教育センターの連携体制、専門職員の配置と活用、子どもの成長を見守る組織づくりが必要です。

先生、児童館・学童職員、子ども会、町会等地域が一団となり、地域の子どもや孫たちを見守る、私は「地域で子育て」をライフワークと考え実践しています。

■民間学童クラブの待機児童、後手後手の対応！

働く女性が増え、学童クラブの不足は明らかでした。区は、ここにきてようやく4ヵ所増やす補正予算を組みましたが、結局2ヵ所の民間学童クラブの誘致に終わっています。いまや30人待機の学童クラブもあります。

■芝の校庭整備に約1,400万円！「全校芝生化計画」頓挫

校舎は雨漏り、壊れたドア、破れたカーテン、教育現場は修理予算もありません。

介護の現場から

■介護保険等の社会保障予算は削減！認知症施策も後れる！

これまで元気で逞しく、地域を支える要となり活躍された方々が、支える側から引退され支えられる側になって行きます。中野区では、高齢者とその家族を支えるはずの現場職員は減らされ、認知症施策においても対応は手薄です。(以下「私の議会報告一般質問」参照)

自分の家に住み続けたいが、これ以上一人暮らしは無理なので、地方の施設に引っ越しされる高齢者の方が次々中野を去っていきます。

地域で私たちを育ててくれた皆さんに安心・安全に暮らし続けられるにはどうすればよいのか、様々な角度から私は発信し続けています。

わたしの家 中野区



今の中野区を、個人の家に例えると

私は小学5年生、父と母と弟、祖父と祖母の6人家族です。先日、祖父が転んで大腿骨骨折をしてリハビリ中です。祖母は最近物忘れが激しく、時々何処かへ行ってしまい困ります。

近くの児童館が閉鎖になり、学童クラブも一杯で入れないので、私は学校が終わると家でプラプラしています。弟はだいぶ待たされましたが、やっと保育園に入れてよかったです。(保育園・学童クラブとも多くの待機児がいる)

家が古く、あちらこちら雨漏りします。屋根を全面改修するにはお金がかかるので、修理できません。子ども部屋のドアは穴が開き、「そのうち直しましょう」と言われたままで。(中野区の教育現場には修理予算が回らない)

最近、表の門を新しくしましたが、狭くて荷物が引つかかって通りにくいです。(新しい中野駅の改札は乗降客の多さに対し狭すぎて朝夕混雑状態)

3年前、庭を一面芝にしました。お父さんは「補助金が出るから大丈夫」と言っていましたが、芝の手入れは大変で、メンテナンスにお金がかかります。雨・霜・雪の後は「芝が傷むから立ち入り禁止!」庭で遊べる時間が減りました。

今度、おじいちゃんの学習塾だった離れの建物をスポーツジムにするために、リフォームしてトレーニングマシンを買いました。高齢者の体力維持・介護予防が何より大事だそうです。でも、歩行困難になったおじいちゃんは離されままで歩けないし、おばあちゃんは何でもすぐ忘れるので危なくてマシンは使えません。

私は、家の屋根を修理して、雨漏りがなくなるほうがずっといいと思います。できれば、子ども部屋のドアも直して欲しい。毎日の生活に必要な修理や環境整備にお金をかけるのが先だと私は思うのですが。

我が家のお金の使い方、少し変だと思いませんか？



私の議会報告

No.

Date

一般質問 2015年2月23日

認知症施策推進事業について

10年後、65歳以上の5人に1人が認知症になると推定される中、政府は今年1月、「認知症施策推進総合戦略・新オレンジプラン」を決定し、認知症になつても、本人の意志が尊重され、住み慣れた地域の良い環境で自分らしく暮らし続けることができる社会の実現を目指すとした。

認知症の早期発見、早期治療等に対する中野区のすこやかの福祉センターの仕事内容は区民に良く知られていない。どのような役割を果たしているのか。

1年半前、私が認知症対策の職員配置が少ないとに対する危惧を質問した時の答弁で「専門人材の活用や配置のあり方についても検討したい」とのことだったが、どのような配置になったのか。

中野区では認知症コーディネーターは、他の業務と兼任職員が1人(実質0.5人)本庁に居るだけ。同じく浴風会を認知症疾患医療センターとしてアウトーチチーム体制を築く杉並区4人・新宿区2人、認知症コーディネーターを配置している。中野区の体制で実際に認知症の早期発見・早期治療が可能なのか。

すこやか福祉センターが相談の窓口であり、地域ケア会議の主催者であるのなら、せめて、北部・南部圏内に1人ずつ認知症コーディネーターを置くべきではないか。

これまで地域を支える要となり活躍された区民が、いつまでも住み続けられる、高齢者に優しい中野区、そして、認知症対応施策も整った中野区を目指すため、早急な対応をお願いする。

答弁 地域支えあい推進室長

すこやか福祉センターは、介護や保険、生活支援等あらゆる相談に応じている。

答弁 健康福祉部長

健康福祉部福祉推進担当に保健師を配置している。区の認知症コーディネーターはすこやか福祉センター等が苦慮する困難事例への初期集中支援を中心に活動し、現状で十分対応できている。

- ■ 近藤さえ子は、平成27年第一回定例会において次の質問をしました。(抜粋)
- ■ 全文は、小枝ネット「私の議会報告」に掲載しています

No.
Date

総括質疑 2015年2月27日

環境問題

1.学校の芝生化

平成20年度の基本計画では、平成29年全小中学校庭の芝生化を目標に掲げたが、今回の予算書からは消えている。現在の状況と、予算を伺う。芝生の維持管理の地域との取り組みと今後の展開について伺う。

答弁 芝生の維持管理費として1,400万円計上。今後芝生化のあり方を検討していく。

2.カーボン・オフセット事業

中野区は、今年度1,104万2千円、27年度762万5千円、カーボン・オフセット事業に予算を計上している。「カーボン・オフセット」とは、排出する温室効果ガスの削減努力をしたうえで、削減できない量を、他の場所での削減・吸収量で埋め合わせすることだが、中野区におけるカーボン・オフセット事業は、みなみみちの業者に約1,000万円で植林を委託し、区民はその事業に寄付金を払うだけ。27年度からは喜多方市ともクリジット制度を始めると言うが、区内の環境施策の向上と区民参加が見えない。

まず、ゴミの減量等温室効果ガス削減に懸命に取り組んだのか疑問だ。区民が自ら参加できるゴミ減量策を目指すべきではないか。

答弁 みなみみちの植林「中野の森作り」への寄付は、56件159,000円。新たに喜多方市と開始するにあたり、寄付コース全体の見直しを考える。

ゴミ減量化については、より多くの区民を取り込めるようにしたい。

教育問題

平成27年度教育センター事業を拡充、不登校対策の充実を図ると言ふが、具体策は?不登校児童・生徒の数の増減は?2か所のフリーステップにはどのくらいの児童・生徒が通っているのか?不登校の子どもたちには学校に行きたがらない理由があり、そこに真摯に向き合い児童・生徒と家庭をサポートしていく組織を作っていただきたい。

答弁 不登校児は増えている。臨床心理士・教員経験者・スクールソーシャルワーカーで新しいチームを作り、学校を巡回、家庭へも支援していきたい。

こえだ 小枝日記(ブログ) <http://saekonikki.exblog.jp/>

* * * * *

近藤さえ子プロフィール

近藤正二(中野区議11期)の次女 北原小・11中・吉祥女子高・和光大学卒 中野区議会議員(3期) 趣味:テニス

* * * * *

こえだ 近藤さえ子の小枝通信

発行:中野市民の会 編集:近藤さえ子事務所

〒165-0027 中野区野方6-45-13

TEL & FAX 03-3330-9584

E-mail saekokondo@mbh.nifty.com

